

# 今年も「登山教室」

東京在住の  
長谷川さん

## 岩崎村の小学生対象

### 「怖さを知れ」と諭す

#### 甘え許さぬ教育論 失敗↓再挑戦を力説

子供たちに岩登りをさせたいという勇気ある決断に共感して昨年夏、岩崎村を訪れた登山家の長谷川恒男さん(51)東京在住が今年もまた同村にやってきて三、四日の二日間、「登山教室」を開いた。夜の合宿では子供たち(ヒマラヤ登山失敗の体験から、「失敗してもまた挑戦する」チャレンジ精神を説き、甘えを許さない教育論まで披露。村の子供たちに数々の「重い」言葉を残して五日、帰京した。

登山教室は三日、深浦町千疊敷海岸の腰掛岩(高さ三十五メートル)で岩登りの実技指導、四日は白神岳(海拔一、二三三メートル、同村)登山を行った。参加したのは同村の岩崎、岩崎南四小五、六年生のうち三十四人。昨年は十七人が参加したが、四人は昨年に続いて二度目の参加だ。

白神岳では、山頂で長谷川さんの腕や胸に触れたり、飛びついたりするほど、子供たちはすっかり溶け込んでいた。実技指導もさることながら、子供たちにとっては十二回で合宿した際(三日、夜のミーティングで聞いた長谷川さんの言葉が強烈に新鮮だったようだ。

ビールを飲みながら子供たちを周りに集めて、まず「大人」と子供の違いを話す。「お前たちはだれのお腹で生きてるんだ。あしたから一人になったら生きれるか」長谷川さんは一人一人を問い詰める。「お前たちは人格が低い」(親に対してこう懐いたと続ける。

子供たちは「恐怖」を知らない。岩登り教室では、けがをするのはやむを得ないとして、生命のかかる場面では子供たちを殴り飛ばす「恐怖」を知ることが、生きていくことを自覚する「こんな話をする大人は初めてだ。教育ママが目を見ろ」という話に、はしやいでいた子供たちは、やが

ては真剣に長谷川さんの言葉を聞くようになっていた。長谷川さんは今年五、六月、魔の山と呼ばれるナンガバルパット(海拔八、二二五メートル)に挑戦して失敗した。「学校の試験で失敗した。もう一度勉強するつもりだ。もう一度勉強するつもりでまた挑戦する。お前たちももう一度挑戦したい」と先

はしゃぐ子供たちに「カツ」を入れる長谷川さん(白神岳山頂付近で)

チョモランマ(エベレスト)北壁に挑戦する。  
岩崎村には素晴らしい自然がある。過疎に悩むというが、若者がこの地元の良さを知らなければ、少い問題解決にならないのではないだろうか。長谷川さんは、こんな言葉も残して村を去っていった。

